



財団法人櫻谷文庫

平成 25 年度 公益財団法人櫻谷文庫事業計画

平成 25 年 3 月 29 日

財団法人 櫻谷文庫



平成 25 年度 公益財団法人櫻谷文庫事業計画

I. 基本的考え方

櫻谷文庫は、大正 2 年に建築された木島櫻谷の居宅でもある有形登録文化財の和館（母屋、画塾）、洋館（公開を目的とした展示室、収蔵庫）、80 畳大画室などの建築物からなり、櫻谷作品、習作、写生帳や画材、手紙類など櫻谷の制作に関わる資料類、さらに櫻谷の収集した中世から近代にかけての伊藤若冲、長沢芦雪、渡辺崋山、池大雅、頼山陽、寂庵、荻生徂徠、貝原益軒を始めとする日本画関係書画、詩文集、書籍、典籍や儒学関係近代美術関係資料も含め一万点以上の資料を収蔵、これらの歴史的文化的資産の維持、修復、調査、研究、一般公開は一体となるもので、建造物、所蔵品の広く一般への公開、収蔵資料データベース化を通じ、美術、芸術の振興、学術研究への寄与、京都市を含む地域振興をめざす。また隣接する学校法人ヴィアートル学園と連携し、美術文化教育の推進のため一層の協力をすすめてゆく。

公益事業として、公益財団法人泉屋博古館との共催による「没後 75 年 木島櫻谷」特別展の開催、同学芸課と共同で収蔵資料の調査、整理、データベース作成をすすめる。この特別展期間中の金土日及び祝日の櫻谷文庫特別公開、また独自の事業としてホームページや Facebook ページ、Pinterest ボードなどのインターネットによる櫻谷文庫関連情報の公開、櫻谷作品や登録文化財建築物の一般公開、京都市文化財マネージャー育成講座、泉屋博古館の博物館講習への実技実習協力の事業、併せて所蔵櫻谷作品の各地美術館等への貸出等他法人等との連携をすすめてゆく。併せて、等持院等地域の観光スポットとの連携、衣笠地区他の美術系法人、登録文化財関係法人等との連携を強化する。また木島櫻谷の墳墓の維持管理を実施する。

収益事業として、洋画家茨木捷彰氏の主宰する美術教室茨木絵画教室に画室をアトリエとして、また地域在住者を主な対象とする書道教室（講師：大脇双琳氏）、及び整美体操教室、（講師：井上敦子氏）に旧画室を教室として、主体展会員浜哲郎氏に本館の一部を制作室として提供する。その他の事業として学校法人ヴィアートル学園との連携による教育支援活動を行ってゆく。



II. 個別事業の推進計画

1. 公益目的事業

櫻谷文庫の所有所蔵する歴史的文化的資産の維持、修復、調査、研究、一般公開は一体となるもので、以下の事業は共通の目的を達成する手段として位置付けられることから一つにまとめた。

- ① 【共催事業】公益財団法人泉屋博古館との共催で「(仮称) 没後 75 年 木島櫻谷」特別展を開催する。

(1) 期間 京都鹿ヶ谷会場 平成 25 年 10 月 26 日 (土) ～ 12 月 15 日 (日)
(京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町 24)

東京六本木会場 平成 26 年 1 月 11 日 (土) ～ 2 月 16 日 (日)
(東京都港区六本木一丁目 5-1)

(2) 貸出料 5,000 円/1 か月/点 (点数は現在検討中)

(3) 計画概要 (泉屋博古館による特別展企画書から)

「明治から昭和にかけて活躍した京都の日本画家木島櫻谷 (1877-1938) の久々の回顧展を開催します。京都三条室町に生まれた櫻谷は、円山四條派の流れをくむ今尾景年に学び、自然観察と叙情の調和する卓越した動物や自然の表現によって、明治後半から大正期にかけて文展の花形として活躍しました。一時は京都画壇の雄として竹内栖鳳と画名を二分した彼ですが、昭和期にはいと次第に画壇から一定の距離をとるようになり、書に囲まれた文雅の生活のなかから瀟洒な南画風の新境地にいたりしました。

また大正期にてがけた住友家からの依頼による連作は、琳派の意匠を取り入れた四季の屏風で、デザイナーとしての一面も垣間見えます。そこには呉服の町に育ち若年時に着物の下絵を手がけた経験が生かされています。

本展は各時期の代表作を集め、さらに財団法人櫻谷文庫所蔵の未公開資料もあわせ、近代京都画壇の俊英櫻谷の多彩な画業を振り返るものです。」

- ② 【独自事業】「(仮称) 没後 75 年 木島櫻谷」特別展との櫻谷文庫同時公開同展の特別見学会として和館、洋館、画室を公開、併せて所蔵品を展示する (24 日間 2,400 名入場予定、入場料 600 円、見込み入場料収入 1,440 千円)。

(1) 案内方法

(1) 京都市東京事務所、京都市観光協会での PR、個人入館者

(2) 当文庫 HP (<http://www.oukokununko.org/>) および

Facebook ページ (<http://www.facebook.com/okokubunko/>) による PR



財団法人櫻谷文庫

- (2)必要経費 当文庫のパンフレット、ポスター作成、ガイド雇人給料。
- (3)今後の展開 財団法人泉屋博古館、京都市東京事務所、公益社団法人京都観光協会、等持院他と連携し事業をすすめる。
- ③ 【独自事業】京都市のイベントに合わせた櫻谷文庫一般公開
京都市のイベント、祇園祭、五山送り火、時代祭等にあわせて一般公開を行う（8日間800名入場予定、入場料600円、見込み入場料収入480千円）。
- (1)案内方法
- (2)京都市東京事務所、京都市観光協会でのPR、個人入館者
- (2) 当文庫HP(<http://www.oukokununko.org/>)および
Facebook ページ(<http://www.facebook.com/okokubunko/>)よるPR
- (2)必要経費 当文庫のパンフレット、ポスター作成、ガイド雇人給料。
- (3)今後の展開 財団法人泉屋博古館、京都市東京事務所、公益社団法人京都観光協会、等持院他と連携し事業をすすめる。
- ④ 【独自事業】登録文化財建築物の修理・保全、原状復旧
有形登録文化財建造物の継続的一般公開のため、経年劣化部分の補修・保全。
- ⑤ 【共催事業】所蔵品の調査、整理、研究、データベース作成（公益財団法人泉屋博古館と共同）収蔵する一万点近い木島櫻谷作品、スケッチ帳、習作他日本画関書画、詩文集、書籍、典籍や儒学関係近代美術関係資料を公益財団法人泉屋博古館学芸課と共同で調査、整理しデータベースを作成、美術館、大学、国立国会図書館を始めとする関係機関に提供し、美術史研究、学術及び美術の振興をめざす。併せて成果物を広く一般に公開する。一部をHPにて公開する。
- ⑥ 【共催事業】有形登録文化財建造物の文化財講習（京都市文化財保護課・NPO古材文化の会との連携）
毎年開催している京都市文化財保護課の文化財マネージャー講習に連携
- ⑦ 【独自事業】収蔵品の補修・保全
収蔵品保存のための燻蒸、継続的一般公開のための表装、額装等を実施
- ⑧ 【共催事業】泉屋博古館の博物館講習への実技実習協力の事業



2. 収益事業等

- ① 洋画家茨木捷彰氏の主宰する美術教室茨木絵画教室に旧画室をアトリエとして提供し、その活動を支援する。 茨木絵画教室関係他の造形作家及び地域の美術作家等が企画する展覧会等が開催される際に旧画室を会場として提供する。
- ② 地域在住者を主な対象とする書道教室（講師：大脇双琳氏）、及び整美体操教室（講師：井上敦子氏）に旧画室を教室として提供し、その活動を支援する。
- ③ 地域在住の主体展会員浜哲郎氏に本館の一部を制作室として提供する。
- ④ 学校法人ヴィアトール学園との連携による教育支援活動



財団法人櫻谷文庫

平成 25 年度 公益財団法人櫻谷文庫収支予算書

平成 25 年 3 月 29 日

財団法人 櫻谷文庫

平成25年度収支予算書

科目	公益事業会計		収益事業等会計			法人会計	合計
	公1	取1	他1	小計			
I. 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
① 基本財産運用益	0	778,000	0	778,000	35,000	813,000	
② 特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	
③ 事業収益							
公開事業	1,920,000	0	0	0	0	1,920,000	
建造物補修復旧	0	0	0	0	0	0	
収藏品調査整理	0	0	0	0	0	0	
④ 寄附金収益	250,000	0	0	0	0	250,000	
⑤ 雑収益	0	0	0	0	0	0	
経常収益計	2,170,000	778,000	0	778,000	35,000	2,983,000	
(2) 経常費用							
事業費							
給料手当	768,000	96,000	7,370	103,370	0	871,370	
臨時雇賃金	1,440,000	0	0	0	0	1,440,000	
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	
修繕費	660,000	200,000	0	200,000	0	860,000	
旅費交通費	50,000	0	0	0	0	50,000	
通信運搬費	65,000	21,000	1,000	22,000	0	87,000	
消耗品費	30,000	0	0	0	0	30,000	
印刷製本費	50,000	0	0	0	0	50,000	
租税公課	0	70,000	0	70,000	0	70,000	
支払負担金	39,000	0	0	0	0	39,000	
支払助成金	0	0	0	0	0	0	
委託費	276,000	90,000	0	90,000	0	366,000	
外注費	0	0	0	0	0	0	
減価償却費	12,000	20,000	0	20,000	0	32,000	
雑費	35,000	18,000	0	18,000	0	53,000	
管理費							
役員報酬	0	0	0	0	0	0	
給料手当	0	0	0	0	88,630	88,630	
臨時雇賃金	0	0	0	0	0	0	
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	
会議費	0	0	0	0	40,000	40,000	
旅費交通費	0	0	0	0	150,000	150,000	
通信運搬費	0	0	0	0	1,800	1,800	
消耗品費	0	0	0	0	20,000	20,000	
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	
賃借料	0	0	0	0	0	0	
諸謝金	0	0	0	0	0	0	
支払負担金	0	0	0	0	0	0	
委託費	0	0	0	0	80,000	80,000	
雑費	0	0	0	0	128,000	128,000	
経常費用計	3,425,000	515,000	8,370	523,370	508,430	4,456,800	
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 1,255,000	263,000	▲ 8,370	254,630	▲ 473,430	▲ 1,473,800	
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	
2. 経常外増減の部	0	0	0	0	0	0	
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	
他会計振替額	131,500	▲ 131,500	0	▲ 131,500	0	0	
当期一般正味財産増減額	▲ 1,123,500	131,500	▲ 8,370	123,130	▲ 473,430	▲ 1,473,800	
一般正味財産期首残高	1,215,537,207	▲ 806,833	0	▲ 806,833	▲ 602,000	1,214,128,374	
一般正味財産期末残高	1,214,413,707	▲ 675,333	▲ 8,370	▲ 683,703	▲ 1,075,430	1,212,654,574	
II. 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産期首残高	350,000	0	0	0	0	350,000	
当期指定正味財産期末残高	350,000	0	0	0	0	350,000	
III. 正味財産期末残高	1,214,763,707	▲ 675,333	▲ 8,370	▲ 683,703	▲ 1,075,430	1,213,004,574	

(注) ①公益目的事業比率 76.85% 適合

②遊休財産保有制限 遊休財産 3,391,874

公益事業会計 事業費計 3,425,000 適合